

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書(5)

—県営畑地帯総合土地改良事業曾於東部三期地区(河床工区),
曾於東部地区(狩川工区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

牧ノ段遺跡
香ノ田遺跡

1990年3月

鹿児島県曾於郡松山町教育委員会

序 文

新橋河床地区、狩川地区の県営畑地帯総合土地改良事業を行うにあたり、この地域は文化財の包蔵地であるので、河床地区牧ノ段遺跡を5月22日から6月8日までの間、狩川地区香之田遺跡を6月9日から7月6日までと11月24日から12月23日までの2回にわたり発掘調査を実施しました。香之田遺跡の2回目の発掘は、工事の設計変更が不可能のため、全面発掘調査となった分です。

両遺跡から縄文時代前期、早期の土器の破片が出土しました。住居跡は今回出土しませんでした。縄文時代早期から人が住んでいたことは、昨年度発掘したこの近くの井手間遺跡を含めて、この地域は余程暮らしやすい場所だったのだろうと改めて痛感しているところです。

農産物自由化の時期は目前に迫っています。自由化時代に世界各国と太刀打ちするには、生産費をいかに安くするかにかかっています。それには人件費を極力抑えるしかありません。そうするには機械力の導入即土地の基盤整備ということになります。文化財保護の立場を堅持しながら、工夫、手だてによって、整備事業が進められることは望ましいことです。

先人が生活していた起伏の多かったところが広々とした畑となり、将来水も引かれて、いろいろな作物がたわわに実るようになるだろうことは喜ばしいことだと思います。

最後になりましたが、積極的に発掘調査に従事していただいた方々、また精力的に御指導いただいた県教育庁文化課の先生方に厚くお礼申し上げます。

平成2年3月

松山町教育委員会教育長

加世田

實

例 言

1. 本報告書は、松山町が平成元年度に実施した県営地帯総合土地改良事業（曾於東部三期地区・曾於東部地区）に伴う牧ノ段遺跡・番之田遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は県農政部からの委託を受けて、松山町教育委員会が実施した。調査の実施にあたっては鹿児島県教育庁文化課の指導・協力を得た。
3. 本書に用いたレベル数値は、すべて海拔絶対高である。
4. 遺物番号は、遺跡ごとの通し番号であり、本文・挿図・図版番号は一致する。
5. 本書の編集・執筆は、上田義明・旭慶男が行った。

目 次

本文目次

序文	
例言	
I. 調査の経過	1
1. 調査に至るまでの経過	1
2. 調査の組織	1
3. 調査の経過	2
II. 遺跡の位置および環境	6
1. 遺跡の位置と環境	6
2. 周辺の遺跡	7
III. 牧ノ段遺跡の調査	12
1. 調査の概要	12
2. 層位	12
3. 各トレンチの調査	15
4. まとめ	23
IV. 香之田遺跡の調査	24
1. 調査の概要	24
2. 層位	24
3. 各トレンチの調査	28
4. まとめ	51

第33図	4 トレンチ土層断面図	28
第34図	5 トレンチ平・断面図	29
第35図	5 a トレンチ平・断面図	29
第36図	5 b トレンチ平・断面図	29
第37図	5 c トレンチ土層断面図	30
第38図	6 トレンチ土層断面図	30
第39図	7 トレンチ平・断面図	30
第40図	8 トレンチ平・断面図	31
第41図	9 トレンチ平・断面図	31
第42図	10 トレンチ土層断面図	31
第43図	11 トレンチ土層断面図	31
第44図	12 トレンチ土層断面図	32
第45図	13 トレンチ土層断面図	32
第46図	14 トレンチ土層断面図	32
第47図	15 トレンチ土層断面図	32
第48図	香之田遺跡 5 a・8 トレンチ拡張区	34
第49図	香之田遺跡出土遺物実測図(1)	35
第50図	香之田遺跡出土遺物実測図(2)	36
第51図	香之田遺跡出土遺物実測図(3)	37
第52図	香之田遺跡出土遺物実測図(4)	38
第53図	香之田遺跡出土遺物実測図(5)	39
第54図	香之田遺跡出土遺物実測図(6)	40
第55図	香之田遺跡出土遺物実測図(7)	41
第56図	香之田遺跡出土遺物実測図(8)	42
第57図	香之田遺跡出土遺物実測図(9)	43
第58図	香之田遺跡出土遺物実測図(10)	44
第59図	香之田遺跡出土遺物実測図(11)	45
第60図	香之田遺跡出土遺物実測図(12)	49
第61図	香之田遺跡出土遺物実測図(13)	50

挿 図 目 次

第1図	遺跡周辺表層地質図	6
第2図	青井面遺跡採集遺物	8
第3図	牧ノ段遺跡・香之田遺跡の位置及び周辺の遺跡	9
第4図	牧ノ段遺跡土層模式柱状図	12
第5図	牧ノ段遺跡周辺地形図	13
第6図	1トレンチ平・断面図	15
第7図	局部断層断面図	15
第8図	2トレンチ土層断面図	15
第9図	3トレンチ平・断面図	16
第10図	3トレンチ出土遺物	16
第11図	4トレンチ土層断面図	16
第12図	5トレンチ平・断面図	17
第13図	5トレンチ出土遺物	17
第14図	6トレンチ土層断面図	18
第15図	7トレンチ平・断面図	18
第16図	7トレンチ出土遺物	18
第17図	8トレンチ平・断面図	19
第18図	8トレンチ出土遺物	19
第19図	9トレンチ土層断面図	20
第20図	10トレンチ土層断面図	20
第21図	11トレンチ土層断面図	20
第22図	12トレンチ平・断面図	20
第23図	12トレンチ出土遺物(1)	21
第24図	12トレンチ出土遺物(2)	22
第25図	13トレンチ土層断面図	23
第26図	14トレンチ土層断面図	23
第27図	土層模式柱状図	24
第28図	香之田遺跡周辺地形図	25
第29図	香之田遺跡トレンチ配置図	26
第30図	香之田遺跡土層断面図	27
第31図	2トレンチ平・断面図	28
第32図	3トレンチ土層断面図	28

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧表(1)	10
第2表	周辺の遺跡一覧表(2)	11
第3表	12トレンチ出土土器観察表	22
第4表	香之田遺跡出土土器観察表	46

図 版 目 次

図版1	牧ノ段遺跡発掘作業風景・1トレンチ局部断面	52
図版2	牧ノ段遺跡 8・5トレンチ遺物出土状況	53
図版3	牧ノ段遺跡 12トレンチ遺物出土状況・発掘作業風景	54
図版4	牧ノ段遺跡 2・4・6・9・10・11・13・14トレンチ土層断面図	55
図版5	香之田遺跡近景・作業風景	56
図版6	香之田遺跡 2・5トレンチ遺物出土状況	57
図版7	香之田遺跡 5a・5bトレンチ遺物出土状況	58
図版8	香之田遺跡 7・8トレンチ遺物出土状況	59
図版9	香之田遺跡 8・4・5c・9・10・11・12・13トレンチ土層断面図	60
図版10	香之田遺跡 5a・8トレンチ拡張区出土遺物	61
図版11	香之田遺跡 5a・8トレンチ拡張区出土遺物	62
図版12	香之田遺跡 5a・8トレンチ拡張区出土遺物	63
図版13	香之田遺跡 5a・8トレンチ拡張区出土遺物	64
図版14	香之田遺跡 5a・8トレンチ拡張区出土遺物	65
図版15	香之田遺跡 5a・8トレンチ拡張区出土遺物	66
図版16	青井面遺跡表採遺物	67

1. 調査の過程

1. 調査に至るまでの経過

鹿児島県農政部（農地整備課・大隅耕地事務所）は、曾於郡松山町河床工区・狩川工区において畑地帯総合土地改良事業を計画し、実施計画区内における埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育委員会（文化課）に照会した。

これをうけて、昭和63年5月および平成元年5月に県文化課で当該地区の分布調査を実施したところ、平成元年度工事実施予定地内に牧ノ段遺跡・香ノ田遺跡の存在していることが確認された。

この結果に基づき、県農政部農地整備課（大隅耕地事務所）、県文化課、松山町教育委員会の間で事業の推進と埋蔵文化財の保護に係る協議が行われ、松山町教育委員会が調査主体となり、遺跡の範囲、性格等を把握するための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、県農政部（農地整備課・大隅耕地事務所）からの受託事業として、松山町教育委員会が調査主体となり、県文化課の協力を得て、平成元年5月22日から7月5日まで実施した。その結果、香ノ田遺跡においては、設計変更が困難であるため、平成元年11月24日～12月22日まで本調査を実施した。調査面積は、牧ノ段遺跡127㎡、香ノ田遺跡 2,635㎡の計2,762㎡である。

2. 調査の組織

調査主体者	松山町		
調査責任者	松山町教育委員会	教 育 長	加世田 實
調査事務担当者	◇	管 理 課 長	川上 哲郎
	◇	主 査	白坂 泰雄
	◇	主 査	佐野 スミ
	◇	社会教育課長	吉元 俊彦
	◇	主 事	津曲 兼隆
	◇	主 事	上原 登
	◇	主 事	中村 嘉壽
	◇	臨 時	上田 義明
	◇	社会教育指導員	前田 實廣
	◇	庶 務 係	別納 洋子
調査担当者	鹿児島県教育委員会	文化財研究員	旭 慶男
	松山町教育委員会	臨 時	上田 義明
調査指導者	鹿児島大学法文学部	教 授	上村 俊雄
	鹿児島大学法文学部	助 手	本田 道輝

なお、調査の企画等において、県教育庁文化課長吉井浩一、同課長補佐奥園義則、同主幹立園多賀生、同主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長吉元正幸、同企画助成係長京田秀充の各氏のほか同企画助成係の指導助言を得た。

3. 調査の経過

調査の経過は、日誌抄により以下略述する。

- 5月22日(月) 河床地区の調査開始。午前中作業用具の点検・準備。午後よりトレンチ設定(1~10T)。2~5T表土掘下げ。
- 5月23日(火) 雨天のため発掘作業中止。教育委員会にて発掘調査の計画立案。パンフレットの作成。地権者への発掘許可の相談。
- 5月24日(水) 1~5Tの掘下げ。1T:午後より掘下げ開始。4a層上面で2層の落ち込み、土層の横転現象検出。写真撮影、平板測量。2T:3b層上面でトレンチ東北側に3a層を埋土とする溝状遺構および2遺黒色度を埋土とするピット群を検出。写真撮影。3T:3b層を埋土とする土壌1基および2層黒色土を埋土とするピット4基を検出。写真撮影、平板測量の後掘下げ土壌の埋土中には径2cm前後の木炭片が多量に含まれている。4T:4層上5T:5層まで掘下げ。遺物・遺構の出土なし。
- 5月25日(木) 1・3・4Tの掘下げ。1T:土層横転部分を半載して掘下げ。3T:3a層を埋土とするピットの掘下げ。4T:5層出土遺物の写真撮影。可耕地課ベンチマークの設定。
- 5月26日(金) 4T:遺物出土状況写真撮影。平板実測。3T:5層より打製石鏃出土。2T:トレンチ拡張。
- 5月29日(月) 1~7掘下げ。2T:拡張部の写真撮影。4T:土層断面図作成。
- 5月30日(火) 2T:検出遺構の平板測量。7T:遺物出土状況写真撮影。平板測量。8T:掘下げ。3層より遺物出土。
- 5月31日(水) 1T:土層横転部分の掘下げ。写真撮影。2T:5層および6層掘下げ。出土遺物なし。4T:埋め戻し終了。5T・6T:完掘状況写真撮影。7T:3a層・3b層・5層から土器、打製石鏃等出土。8T:2層および3a層から土器出土。写真撮影、平板測量。大隅耕地事務所徳元技術主査来跡。
- 6月1日(木) 1T:土層断面図及び土層横転部分の実測。2T:7層(サツマ)上面まで掘下げ。出土遺物なし。3T・5T・6T:土層断面図作成。7T:5層より土器片数点出土。8T:2層および3a層出土の遺物写真撮影、平板測量。9T・10T:5層まで掘下げ。
- 6月2日(金) 1T・3T・5T:埋めもどし終了。7T・8T・9T・10T:掘下げ。11

- T:耕作土直下(3a層)から土器片が数点出土したが、攪乱を受けている可能性が高い。
- 6月5日(月) 2T:完堀状況写真撮影。土層断面図作成。7T 3b層および5層の遺物出土状況写真撮影。8T:5層より縄文時代早期の土器数点出土。9T・10T:5層および6層掘下げ、出土遺物なし。11T:遺物出土状況写真撮影、平板測量。12T:3b層より曾畑系と思われる土器片数点出土。遺物出土状況写真撮影、平板測量。町耕地課福岡氏来跡。
- 6月6日(火) 2T・7T:埋めもどし終了。8T:3b層、5層出土遺物平板測量。完堀状況写真撮影、土層断面図作成。埋めもどし。10T:完堀状況写真撮影、土層断面図作成。埋めもどし。11T・12T・13T:掘下げ。12T:3b層土器片数点出土。出土状況写真撮影、平板測量。
- 6月7日(水) 11T・12T・13T:完堀状況写真撮影、土層断面図作成。埋めもどし。13Tの南東側にミニトレンチを設定。14トレンチ設定、掘下げ。
- 6月8日(木) 14T:6層下部まで掘下げ。出土遺物なし。完堀状況写真撮影・平板測量。午後より狩川工区香ノ田遺跡へ移動。1~4トレンチ設定、表土剥ぎ。
- 6月9日(金) 雨天のため発掘作業中止。町立歴史民俗資料館にて出土遺物の整理。
- 6月13日(火) 雨天のため発掘作業中止。大隅耕地事務所にて狩川工区、特殊農地保全事業豊留工区について打合せ。
- 6月14日(水) 2~6層掘下げ。
- 6月15日(木) 香ノ田遺跡。1T:耕作土のすぐ下はシラス層。完堀状況写真撮影。2T:耕作土直下に土器片3点出土。平板実測。3T:ゴボウの溝で7層まで攪乱を受けている。出土遺物なし。4T:3a層上面で2層を埋土とするピット検出。出土遺物なし。
- 6月16日(金) 2T:5・6層掘下げ。縄文時代早期の土器出土。3T:9層まで掘下げ。4T:4層アカホヤ層掘下げ。5T:遺物出土状況写真撮影、平板実測。6T:5層アカホヤ層掘下げ。5T:遺物出土状況写真撮影、平板実測。6T:5層剥ぎ。7・8T設定、表土剥ぎ。午後3時より曾於・肝属地区文化行政担当者会現地研修。
- 6月19日(月) 2T:5層遺物出土状況写真撮影。5T:5層出土遺物平板実測。4, 6, 7, 8T掘下げ。
- 6月20日(火) 2・3T:清掃、完堀状況写真撮影。断面図作成。4T:5層掘下げ。出土遺物なし。5T:完堀状況写真撮影。6T:8層まで掘下げ、出土遺物なし。7T:5層掘下げ、土器小片3点出土。8T:3・4層掘下げ、出土遺物なし。9T設定、表土剥ぎ。
- 6月21日(水) 4T, 6T:清掃、完堀状況写真撮影。断面図作成。5T:断面図作成。7T:5層遺物出土状況写真撮影。8, 9T掘下げ。5Tの遺物包含層の広が

りをみるためにミニトレンチ（5 a , 5 b , 5 c T）を設定。

- 6月22日(木) 4 T：断面図作成。5 a T：5層遺物出土状況写真撮影。平板実測。5 b T：3 b層遺物出土状況写真撮影。平板実測。9 T：5層より条痕文土器1点出土。
- 6月23日(金) 1～6 T：埋戻し。雨天のため午後より発掘作業中止。
- 6月26日(月) 7 T：断面図作成。8 T：5層より土器1点出土。5 b , 5 c , 9 , 10 T掘下げ。
- 6月27日(火) 5 a T：断面図作成。埋戻し。5 b T：5層遺物出土状況写真撮影。平板実測。5 c T：完掘状況写真撮影。断面図作成。埋戻し。7 T：埋戻し。8 T：5層遺物出土状況写真撮影。平板実測。断面図作成。9 T：5層遺物出土状況写真撮影。平板実測。10～12 T掘下げ。
- 6月28日(水) 9 T：土層断面図作成。10 T：完掘状況写真撮影。土層断面図作成。11～15 T：4層アカホヤ層まで掘下げ。鹿児島大学法文学部上村教授，本田助手現地指導。財部町社会教育課長他2名遺跡見学。
- 6月29日(木) 11～15 T：アカホヤ層掘下げ。鹿児島大学法文学部上村教授，本田助手現地及び遺物指導。町文化財保護審議会委員4名現地視察。
- 6月30日(金) 雨天のため発掘作業中止。委員会にて図面整理及び事業報告書作成。
- 7月3日(月) 11～15 T：5層掘下げ。出土遺物なし。午後より雨天のため発掘作業中止。
- 7月4日(火) 11～15 T：5層掘下げ。出土遺物なし。県文化課吉元理蔵文化財係長現地指導。（5日まで）
- 7月5日(水) 11～15 T：掘下げ終了。完掘状況写真撮影。土層断面図作成。埋めもどし。
- 7月6日(木) 発掘作業終了。作業用具の点検。片付け，運搬。

5 a トレンチ・8 トレンチ拡張調査

- 11月24日(金) 香之田遺跡5 a トレンチ・8 トレンチ付近調査開始。午前中作業用具の点検・準備。午後より重機を使って8 トレンチを中心に十字型に拡張。4 b層を掘上げる。
- 11月25日(土) 5層の掘り下げ開始。出土遺物なし。
- 11月27日(月) 5層の掘り下げ開始。出土遺物なし。
- 11月28日(火) 8 トレンチ北東側で5層より縄文時代早期の遺物確認。
- 11月29日(水) 8 トレンチ北西側で5層より縄文時代早期の遺物確認。
- 11月30日(木) 8 トレンチ北東・北西側調査継続。
- 12月1日(金) 8 トレンチ北東側を重機を使って拡張。
- 12月2日(土) 8 トレンチ北東側調査継続。北西側を重機を使って拡張。
- 12月4日(月) 8 トレンチ北東側5・6層を掘上げ、7層上面検出。北西側調査継続。
- 12月5日(火) 8 トレンチ北東側5層遺物出土状況実測・写真撮影。北西側調査継続。

- 12月6日(木) 8トレンチ北西側5層を掘上げ、6層上面検出。北東側2m×1mの区画をさらに掘り下げる。北西側縄文時代早期該当の土器多数出土。
- 12月7日(木) 8トレンチ北西側6層を掘上げ、7層上面検出。北東側7・8層を掘上げ、9層上面検出。北東側出土遺物なし。
- 12月8日(金) 8トレンチ北西側遺物出土状況実測・写真撮影。8トレンチ南東側5層掘り下げ。出土遺物なし。
- 12月9日(土) 8トレンチ南東側調査継続。出土遺物なし。
- 12月11日(月) 8トレンチ南東側7層上面検出。出土遺物なし。
- 12月12日(火) 8トレンチ南東側8層上面検出。出土遺物なし。県文化課旭慶男氏現地指導。
- 12月13日(水) 8トレンチ北西側重機を使ってさらに拡張。県文化課旭慶男氏現地指導。
- 12月14日(木) 8トレンチ北西側調査継続。縄文時代早期該当の土器多数出土。
- 12月15日(金) 8トレンチ北西側調査継続。
- 12月16日(土) 8トレンチ北西側調査継続。7層上面検出。
- 12月17日(日) 8トレンチ北西側調査継続。8層上面検出。出土遺物なし。
- 12月18日(月) 5aトレンチを中心に重機を使って拡張。5層面検出。グリッド設定。
- 12月19日(火) 8トレンチ北西側遺物出土状況実測・写真撮影。5aトレンチ調査継続。
- 12月20日(水) 8トレンチ北西側重機を使ってさらに拡張。5aトレンチ調査継続。
- 12月21日(木) 5aトレンチ重機を使ってさらに拡張。5a・8トレンチ調査継続。
- 12月22日(金) 5aトレンチ重機を使って拡張終了。8トレンチ北西側遺物出土状況実測・写真撮影。5a・8トレンチ拡張位置図実測。土層断面図実測。
- 12月23日(土) 5aトレンチ遺物出土状況実測・写真撮影。全作業終了。作業用具の片付け、運搬。

2. 遺跡の位置および環境

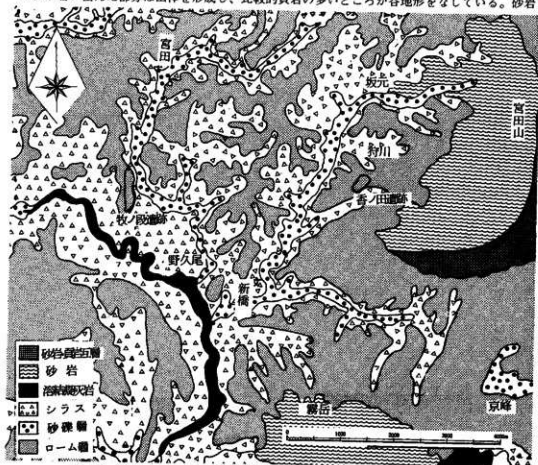
1. 遺跡の位置と環境

本町は、宮田山（標高約520m）と霧岳（標高約408m）を結ぶラインで菱田川水系と安楽川水系とに区分されるが、牧ノ段遺跡、香ノ田遺跡ともに菱田川水系に属する。

牧ノ段遺跡は、曾於郡松山町新橋字牧ノ段にあり、菱田川および菱田川支流の山角川で開析された標高約180mのシラス台地の末端部に位置している。

香ノ田遺跡は、曾於郡松山町新橋字狩川にあり、菱田川の支流松尾川に余って開析された標高約180mのシラス台地上に位置している。

遺跡周辺の地質は、この地域の基盤をなす古第三系の日南層群とその上における始良カルデラ噴出物（溶結凝灰岩、シラス）で構成されている。日南層群は、シラス台地の下に広く分布するが、宮田山・霧岳などではシラス台地の中の独立した島状山体を構成している。砂岩・頁岩およびこれらの互層からなるが、一般にはほぼNE-SWの走向のものが多く、硬い砂岩あるいは砂岩に富んだ部分は山体を形成し、比較的頁岩の多いところが谷地形をなしている。砂岩



第1図 遺跡周辺の表層地質図 (土地分類基本調査一末吉一1974 原図)

は新鮮なものは灰白～青灰色を呈するが、風化すると黄褐色に変化する。頁岩は、灰黒色でよく固結しているが風化すると灰白色を帯び剝離しやすくなる。シラス台地を構成する溶結凝灰岩、シラスは、いずれも始良カルデラから噴出されたものである。シラス台地の下にはほとんど普遍的に溶結凝灰岩が分布しているが、直接露頭が観察できるのは菱田川の河床に沿った部分に限られる。これらのシラス台地を覆って新期火山灰層が2～4mの厚さで広く分布している。また、シラス台地を開析してできた谷底平野には、砂・礫を主体とする未固結の沖積層が分布している。これらの構成物はそのほとんどがシラスに由来するものである。

2. 周辺の遺跡

松山町内の遺跡は現在まで93ヶ所が知られているがこの中でいままでに発掘調査が行われた遺跡として前谷遺跡(10)、稗ヶ迫B遺跡(44)、稗ヶ迫C遺跡(8)、前谷B遺跡(93)、井手間遺跡(48)、山ノ田遺跡(26)などがある。

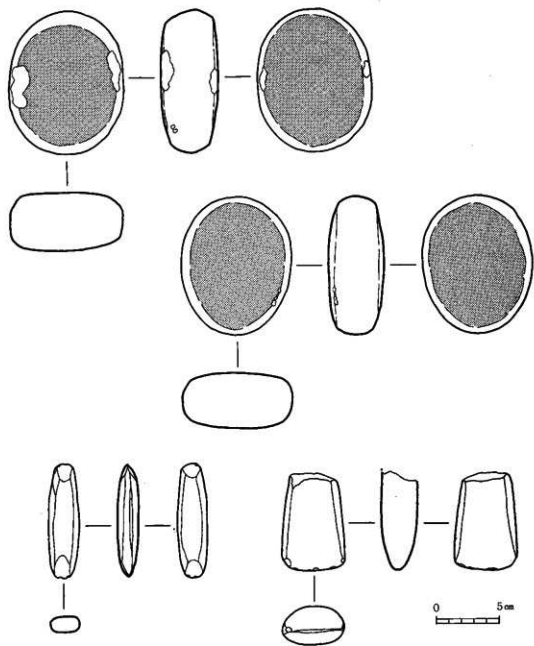
前谷遺跡は、昭和60年に調査が行われたが、縄文時代中期の春日式土器、打製石鏃・石匙・石斧などの石器とともに5基の住居跡、ドングリなどの炭化した木の实も発見された。また、この他に弥生時代の住居跡、歴史時代の掘立柱建物跡なども発見されている。出土した遺物は復元整理されて町立歴史資料館に展示されている。また、検出された住居跡などの遺構は盛土による現地保存が図られている。

稗ヶ迫B遺跡・稗ヶ迫C遺跡は、昭和63年に県営畑地帯総合土地改良事業に伴う確認調査が行われたが稗ヶ迫B遺跡は弥生時代中期、稗ヶ迫C遺跡は縄文時代中期を主体とする遺跡である。

前谷B遺跡は、昭和63年6月に土地改良事業に伴う確認調査が行われたが、設計変更等による保存が不可能な部分については、12月に緊急発掘調査が実施された。調査の結果、縄文時代晩期の土壇3基、弥生時代中期の住居跡3基を含む多くの資料が得られた。

井手間遺跡は、昭和63年に特殊農地保全事業に伴う確認調査・緊急発掘調査がおこなわれたが、弥生時代中期の住居跡が2基発見された。このうち2号住居跡は、長方形と楕円形をくみ合わせ、さらに長方形の張りだしがついた「花卉状」をなす南九州弥生時代の特徴的なものである。このほかにも縄文時代早期の土器・石器も多量に出土した。山ノ田遺跡も昭和63年に特殊農地保全事業に伴って確認調査が行われたが、前平式・石坂式などの縄文早期の土器が出土している。

香ノ田遺跡の南西側の台地(青井面遺跡)では、10年ほど前畑地造成をした際に多量の土器・石器が出土したといわれ、現在でも地表面に土器の散布がみられる。第2図はこの青井面遺跡で採集されたものであるが、縄文時代早期を主体とする遺跡と考えられる。



第2図 青井面遺跡採集の遺物



第8図 牧ノ原、香之田灌漑の位置及び周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧表 (1)

番号	遺跡名	所在地	時代						遺構・遺物	文献
			旧石	縄文	弥生	古墳	古代	中世		
67-1	宇都谷	新橋字宇都谷		○					前平式	①
67-2	宇都D	新橋字宇都		○				○	古田式黒曜石土師器須恵器	①
67-3	砂山A	新橋字砂田		○					石坂式黒曜式埴型文石	①
67-5	下追C	新橋字下追		○					塞ノ神式蛭島産黒曜石	
67-6	横之俣	新橋字横之俣		○					塞ノ神式	
67-7	砂田D	新橋字砂田		○	○				塞ノ神式	
67-8	神ヶ道C	新橋神ヶ道		○	○			○	蓋式・土師器	①-③
67-9	内野野C	妻野字内野野		○					塞之神式・打製石斧	②
67-10	前谷	妻野字堀ノ内		○						
67-11	公会堂上	新橋字公会堂上		○					塞之神式	
67-12	狩川B	新橋字狩川		○					阿高式・石	
67-13	松山	新橋字松山		○					阿高式・御槌式 磨製石斧・石	
67-14	入道久保A	新橋字入道久保		○					阿高式石斧	
67-15	内野野B	妻野字内野野		○					阿高式・磨製石斧 凹石・石皿	
67-18	垂門A	新橋字垂門		○					市来式	
67-19	下追A	新橋字下追		○	○			○	御槌式・土師器	①
67-20	堀口	新橋字堀口		○				○	御槌式・石鏡・青磁	①
67-21	河床	新橋字河床		○						
67-22	宇都A	新橋字宇都		○					松山式・石皿	①
67-24	宇都C	新橋字宇都		○					岩崎上層式	①
67-26	山ノ田	新橋字山ノ田		○				○	松山式・土師器・石鏡	①、④
67-27	後谷A	新橋字後谷		○					指環式	①
67-28	上ノ原	新橋字上ノ原		○					織式・岩崎上層式	
67-30	飯屋	新橋字飯屋		○				○	土師器	
67-31	神ヶ道A	新橋字神ヶ道		○				○	御槌式・土師器	①
67-32	中山A	新橋字中山		○					黒曜石	①
67-33	堀ノ内	妻野字堀ノ内		○				○	市来式・黒曜石・土師器	①
67-36	百田	新橋字百田		○					上加世田式・打製石斧	①
67-37	横溝	新橋字妻門横溝		○				○	磨製石斧・土師器	①
67-38	牧ノ原B	新橋字牧ノ原		○				○		
67-39	大原	新橋字大原		○	○			○	入来式・土師器	
67-40	後ノ谷	新橋字後谷		○				○	土師器	
67-41	水流通	新橋字水流通		○					土師器	
67-42	蔵野	新橋字蔵野		○				○	土師器・打製石斧	
67-43	入道久保B	新橋字飯屋		○				○	土師器・須恵器	
67-44	神ヶ道B	新橋字神ヶ道		○					磨製石斧	①、③
67-45	中山B	新橋字中山		○	○				入来式	①
67-47	牧ノ段	新橋字牧ノ段		○						
67-48	弁手間	新橋字弁手間		○						①、④
67-49	製木	新橋字製木		○				○	土師器・青磁・鉄滓	
67-50	大塚B	新橋字大塚垂門		○				○	土師器	
67-51	後谷B	新橋字後谷		○						
67-52	前ノ谷	新橋字後谷		○						
67-53	前谷	新橋字前谷		○						
67-54	砂田C	新橋字砂田		○				○	土師器	①

第2表 周辺の遺跡一覧表 (2)

番号	遺跡名	所在地	時 代						遺構・遺物	文献
			旧石	縄文	弥生	古墳	古代	中世		
67-56	豊留	新橋字豊留			○				打製石斧	
67-57	大塚A	新橋字大塚			○					①
67-58	狩川A	新橋字狩川			○				打製石斧・磨製石斧・石	
67-59	内野野A	栗野字内野野			○				石斧・石鏃	
67-65	砂田B	新橋字砂田			○					
67-66	川路	新橋字川路			○				打製石斧・石彈	
67-67	栗須田	新橋字栗須田			○					
67-71	竹下	新橋字竹下					○		土師器・須恵器・青磁	①
67-72	四ッ枝	新橋字四ッ枝					○		土師器・須恵器・青磁	
67-73	垂門C	新橋字垂門					○		土師器	
67-74	下迫B	新橋字下迫					○		土師器	
67-75	牧ノ原A	新橋字牧ノ原					○		土師器	
67-76	豊留	新橋字豊留					○		板碑	
67-78	狩川C	新橋字狩川					○		須恵器	
67-79	清水迫	新橋字清水迫					○		土師器	
67-81	豊留	新橋字豊留						○	田之神鹿	
67-82	垂門B	新橋字垂門			○				土師器	
67-83	前之塚	新橋字前之塚			○				土師器	
67-84	栗野城跡	栗野字前之塚								
67-85	松山城跡	新橋字松尾							文治4年(1188年) 隠岐守重頼築城松山 川要害地	
67-89	栗野の石敢当	栗野								
67-90	馬場の焼中塔	新橋馬場								
67-92	豊留の板碑	。								
67-93	前谷B	栗野								③、⑤

【文献】

- (1) 『大隅地区埋蔵文化財分布調査報告概報一昭和58年度』 鹿児島県埋蔵文化財調査報告書 29 1984.3 鹿児島県教育委員会
- (2) 『前谷遺跡』 松山町埋蔵文化財発掘調査報告書 (1) 1986.3 松山町教育委員会
- (3) 『俣ヶ追B遺跡・俣ヶ追C遺跡・前谷B遺跡』 松山町埋蔵文化財発掘調査報告書 (2) 1989.3 松山町教育委員会
- (4) 『井手間遺跡・山ノ田遺跡』 松山町埋蔵文化財発掘調査報告書 (3) 1989.3 松山町教育委員会
- (5) 『前谷B遺跡』 松山町埋蔵文化財発掘調査報告書 (4) 1990.3 松山町教育委員会

3. 牧ノ段遺跡の調査

1. 調査の概要

調査区域は、菱田川および菱田川の支流山角川に囲まれた標高約180mの台地末端部にあり、南東方向に緩やかに傾斜している。東側の水田との比高差は約40mである。台地の中央部を南北方向に曾於広城農道が通っているが、今回の調査はこの広城農道の東側部分である。昭和58年、62年の分布調査では、縄文時代晩期の土器が採集されている。

発掘調査は、分布調査によって遺跡が確認された部分、立地条件等から遺跡の可能性の高い部分を中心に2m×4mのトレンチを基本として14ヶ所設定して行った。その結果、3・4・7・8・12トレンチにおいて縄文時代早期、前期の土器・石器が出土した。

2. 層位

調査区域内の層序は、基本的には第4図のように区分できる。

1層：暗褐色耕作土。色調により2～3層に区分できる。

2層：黒色腐植火山灰土層。黒色微粒の植壤土で、やや粘質を帯びる。

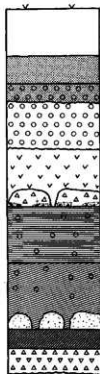
3 a層：褐色腐植火山灰土層。3 b層の軽石質火山灰層に2層の有機質がしみ込んだもので、3 b層との境は不安定で漸移している。

3 b層：明黄褐色軽石質火山灰土層。きわめて淘汰のよい直径5mm前後の黄褐色軽石を含み、サラサラしている。3 a層および4層との境は不明瞭で漸移している。霧島火山御池軽石層に対比できるものと思われる。縄文時代前期の遺物包含層である。

4 a層：褐色腐植火山灰土層。褐色～黒褐色を呈する硬く締まった層でとくに遺跡南側(9～12T)では強い黒色を帯び、直径1cm前後の黄橙色軽石を多く含む。4 b(アカホヤ)層の2次堆積層と思われる。縄文時代前期の遺物包含層である。

4 b層：明褐色火山灰土層。上位のフカフカした新鮮な火山灰と下位の砂粒、火山豆石を含む薄層理層とに区分できる。安定した層をなさず5 a層下部にブロック状に点在している場所も見られる鬼界カルデラ起源のアカホヤ層に対比できる。

5層：灰褐色火山灰土層。直径1cm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含む。縄文時代早期の遺物包含層である。



第4図 土層模式柱状図 6層：黒褐色腐植土層。径5mm前後の黄橙色軽石および青灰色の安山



第5図 牧ノ段遺跡周辺の地形図

岩小礫を多く含み、割合に硬く締まっている。5層との境は不明瞭で漸移している。

7層：黄橙色火山灰土層。割合に硬く締まった粘土化した火山灰土で、6層下部にブロック状にはいる。桜島起源の「薩摩層」に対比できる。

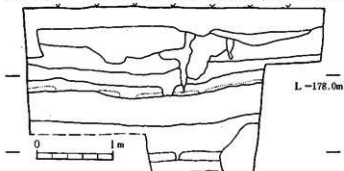
8層：明褐色粘質土層。きわめて細粒の粘質を帯びたソフトローム層である。

9層：淡黄褐色火山灰土層。粘土化した二次シラス層である。

3. 各トレンチの調査

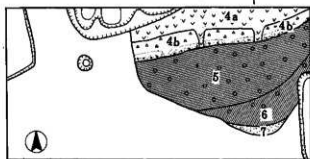
1 トレンチ

調査区域の北端、標高約179m地点に設けたトレンチで、長軸はほぼ東西を向く。トレンチの東側は急崖をなして山角川の水田地帯に面しており、水田との比高差は約40mである。3 a層上面で2層の埋土をもつ不定形の土塊および径30cmのピットが検出されたが、人工遺物は出土しなかった。4 a層上面でトレンチ北側に局部断層が検出された。この局部断層は北および東側にもっとのびているが、直径約4mの円形をなすものと思われる。横転現象は8層明茶褐色粘質土層まで達しているが、最下部は層がみだれ4 b、5、6、7、8層がブロック状に混在している。



第6図 1トレンチ平・断面図

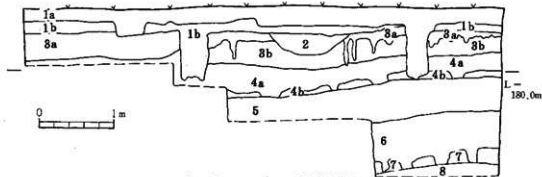
側にもっとのびているが、直径約4mの円形をなすものと思われる。横転現象は8層明茶褐色粘質土層まで達しているが、最下部は層がみだれ4 b、5、6、7、8層がブロック状に混在している。



第7図 局部断層断面図

2 トレンチ

曾於広域農道に沿った標高約180m地点に設定した。トレンチで、主軸はほぼ東西を向く。3

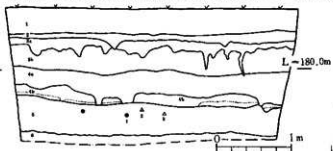


第8図 2トレンチ土層断面図

b層上面で2層を埋土とする不定形の土塊及びビットが検出されたためトレンチを拡張して20㎡を調査したが、遺物は出土しなかった。

3 トレンチ

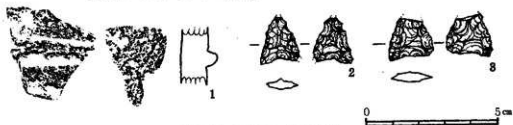
東側急崖に面した標高約1805m地点に設けたトレンチで主軸はほぼ東西を向く。3 b層上面



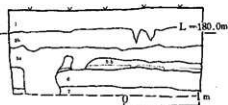
で3 a層の埋土をもつ不定形のビット(ビット1)と2層の埋土をもつビット(2・3・4・5)が検出された。ビット1の埋土には炭化物が多量に含まれていたが、人工遺物は供伴しなかった。5層より土器2点と打製石鏃2点が出土した。

1は外面赤褐色、内面黄褐色を呈し、外面に幅約5mmの突帯をもつものである。2・3は浅い抉りをもつ凹基式の打製石鏃であるが、いずれも表裏面ともに粗い剝離調整が施されている。2は砂岩製、3は玄武岩質の石材を用いている。

第9図 3 トレンチ平・断面図



第10図 3 トレンチ出土遺物



第11図 4 トレンチ断面図

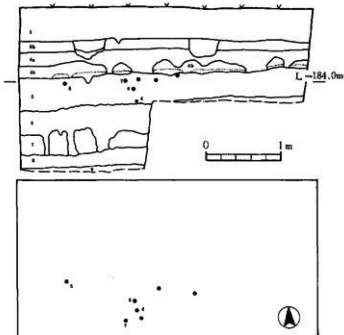
4 トレンチ

曾於広城農道沿いの標高約184m地点に設けたトレンチで、4 a層から上はすでに削平されていた7層まで掘下げたが遺物は出土しなかった。1層耕作土から縄文晩期のものと思われる土器底部が出土した。

5 トレンチ

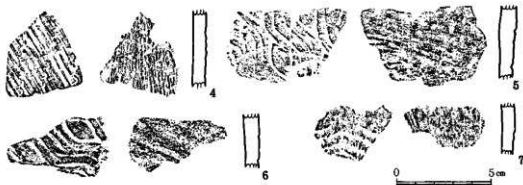
調査区域のほぼ中央部標高約185m地点に設けたトレンチで主軸はほぼ東西を向く。各層ともにほぼ水平に堆積している。5層から縄文早期の土器片が出土した。(第13図)

4は規則性のある斜位の貝殻条痕文を地文として施し、地文に重ねて貝殻腹縁による縦位の刺突文を施すものである。外面黒褐色、内面茶褐色を呈し、薄手の堅緻な土器で内面にも浅い条痕がみられる。胎土に角閃石を多く含む。5・6は縦位あるいは斜位の山形押形文土器である



第12図 5 トレンチ平・断面図

5は内外面ともに暗褐色を呈し、内面はナデ調整である。胎土に石英、長石のほか雲母を多く含んでいる。6は内外面ともに茶褐色を呈し、表面がザラザラしている。胎土に石英、長石を多く含む。7は外面に貝殻腹縁による弧状の刺突文を施すものである。内面は丁寧なナデ調整である。胎土に石英粒を多く含む。

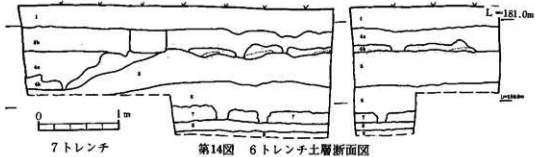


第13図 5 トレンチ出土遺物

6 トレンチ

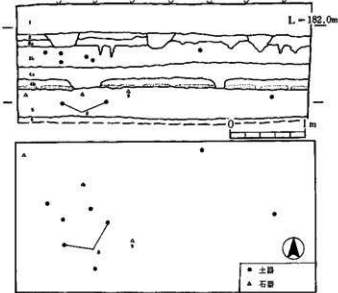
2 トレンチの東側約40m 地点標高約181m 地点に設定したトレンチである。9層まで掘り下げた

が人工遺物は出土しなかった。



第14図 6トレンチ土層断面図

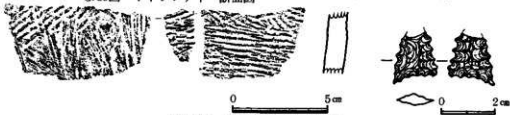
4トレンチと5トレンチのほぼ中間点に設定したトレンチで各層ともほぼ水平に堆積している。3b層上面で3a層を埋土とする不定形の落ち込みが検出されたが、伴する遺物はなく性格は不明である。3b層及び5層より土器及び打製石鏃、チャート片が出土した。3b層出土のものは小片で無文のものが多く、図化し得なかった。



第15図 7トレンチ平・断面図

8は内外面ともに貝殻状痕を施している。外面の状痕は斜位に交差している。内面は下部に横位、上部に斜位の条痕が施されている。外面赤褐色、内面暗褐色を呈し、胎土に石英・角閃石を多く含んでいる。

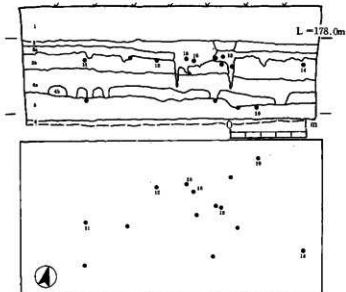
9はチャート製の打製石鏃で、基部の挟りが浅く平基式に近い。先端は欠損しているが、両面から鋸歯状の丁寧な交互剝離調整が施されているこのほかにもチャート製の剝片が出土している。



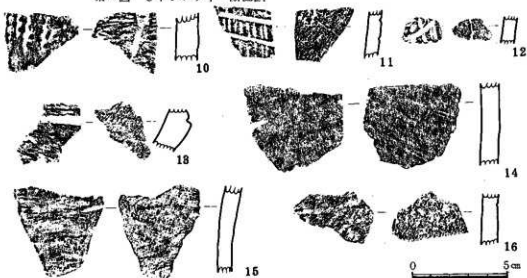
第16図 7トレンチ出土遺物

8 トレンチ

標高約178m地点に設定したトレンチで、各層ともほぼ水平に堆積している。5層及び3b層から土器が出土した。10は5層褐色土層から出土したもので、外面に縦位の貝殻刺突が施文されている。11~16は3b層出土である。11は横位の沈線間にヘラ状施文具による縦位の短い沈線を施したもので、内面は丁寧なナデ調整である。内外面ともに黄褐色を呈するが、胎土に石英細粒を多く含む。12も小片であるが外面にヘラ状の施文具による沈線が施されている。13は厚手の土器で、外面に幅約4mmの横位の沈線を施したもので、外面赤褐色、内面黒褐色を呈し石英・角閃石を多く含む。14は内外面ともに丁寧なヘラ研磨が施されている。15は外面に浅い条痕、内面に条痕を施したあとナデ調整痕が見られる。胎土に石英、角閃石、細礫を多く含む。



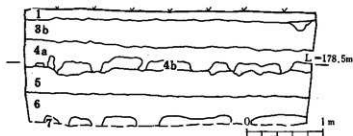
第17図 8 トレンチ平・断面図



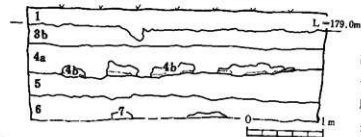
第18図 8 トレンチ出土遺物

9 トレンチ

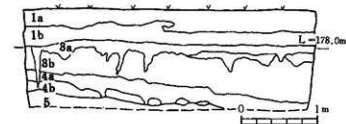
8 トレンチの西方約60m地点、標高約178.5m地点に設けたトレンチで主軸はほぼ東西を向く



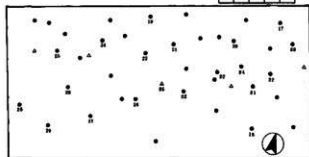
第19図 9トレンチ土層断面図



第20図 10トレンチ土層断面図



第21図 11トレンチ土層断面図



第22図 12トレンチ平・断面図

による刺突文を施している。内面には横位の貝殻条痕がみられる。胎土に雲母を多く含んでい

4b層から上はすでに削平されている。調査区域の南側(9・10・11・13トレンチ周辺)では4層に黄褐色軽石がはいり、強い黒色を帯びる傾向がみられる8層(サツマ)まで掘下げたが遺物は出土しなかった。

10トレンチ

9トレンチの南方約90m、標高約179m地点に設定したトレンチで主軸はほぼ東西を向く。各層ともほぼ水平に堆積しているが、遺物は出土しなかった。

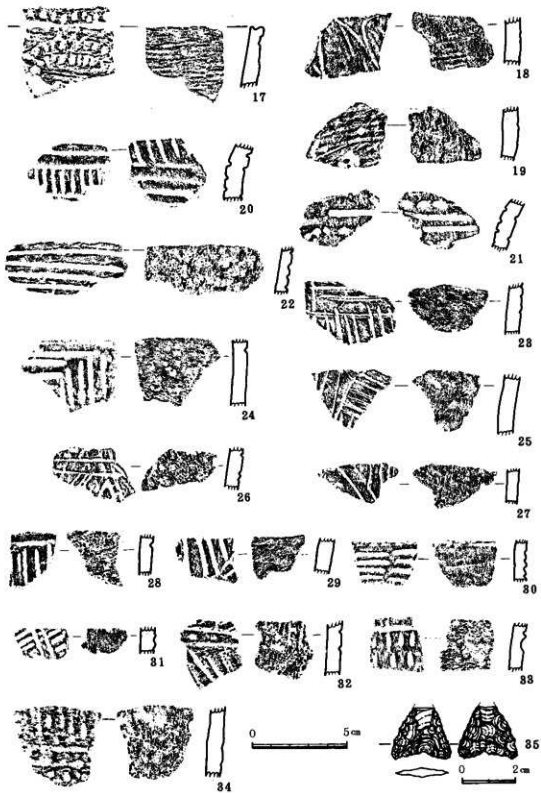
11トレンチ

調査区域の南端に設定し、5層まで掘下げたが遺物は出土しなかった。分布調査では広域農道沿いに縄文時代晩期の遺物の散布がみられたが、この時期の物物包含層は過去の畑地造成等ですでに削平されている。

12トレンチ

調査区域の南東端に舌状に張りだした標高約176m地点に設定したトレンチである。耕作土直下の3b層及び4a層より縄文時代前期の土器が集中して出土した。(第22図)

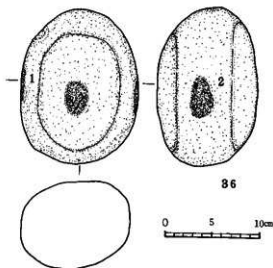
17はほぼ直口する口縁部の外面に横位の貝殻条痕を施しその上に幅約5mmのヘラ状施文具による押しき文を重ねて施文したものである。また口唇部にも同様のヘラ状施文具



第 23 図 12 トレンチ 出土 遺物 (1)

る。18は外面にヘラ状施文具による沈線を施し、その区画内に縄文あるいは燃糸文をもつものである。19は外面に横位の貝殻条痕がみられる。20～34は、ヘラ状施文具による平行沈線を組み合わせた幾何学文様を基本とする土器群で、曾畑式土器に比定できる。20・21は外反気味の口縁部で、内外面に縦位、横位の沈線文及び刺突連点文を施文するものである。

35は3層出土の黒曜石製打製石鏃である基部の決りが浅い平基式に近い凹基式の石鏃で、両面ともに丁寧な交互剝離調整が施されている。先端部は欠損しているが、残存全長1.9cm、最大幅2.2cm、厚さ0.35cm、重さ1.15gを測る。36は長径17cm、短径13cmの大型の印石である。砂岩の自然円礫を利用したもので、両面及び側面に敲打痕が見られる



第24図 12トレンチ出土遺物(2)

第3表 12トレンチ出土土器観察表

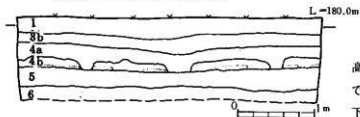
遺物番号	層	胎土	焼成	色		内面調整	文様その他
				外面	内面		
17	3 b	石英・長石・雲母(多量)	良好	暗褐色	褐色	ナデ	外面:ヘラ状施文具による押引文 口縁部:ヘラ状施文具による刺突文
18	4 a	石英・長石・角閃石	良好	茶褐色	褐色	ナデ	沈線内に縄文あるいは燃糸文
19	4 a	石英・長石・細砂礫	良好	茶褐色	黒褐色	ナデ	横位の貝殻条痕
20	4 a	石英・長石・細砂礫	良好	暗褐色	褐色	ナデ	内外面ともにヘラ状施文具による
21	4 a	石英・長石・細砂礫	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	内外面ともにヘラ状施文具による沈線文及び刺突連点文
22	4 a	石英・長石・細砂礫	良好	明褐色	黒褐色	ナデ	ヘラ状施文具による沈線文
23	3 b	石英・長石・細砂礫	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	ヘラ状施文具による沈線文
24	4 a	石英・長石・細砂礫	良好	褐色	暗褐色	ナデ	ヘラ状施文具による沈線文
25	4 a	石英・長石・細砂礫	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	ヘラ状施文具による沈線文
26	3 b	石英・長石・角閃石・細砂礫	良好	暗褐色	茶褐色	ナデ	ヘラ状施文具による沈線文
27	4 a	石英・長石・細砂礫	良好	褐色	黒褐色	ナデ	ヘラ状施文具による沈線文
28	4 a	石英・長石・細砂礫	良好	褐色	褐色	ナデ	ヘラ状施文具による沈線文
29	4 a	石英・長石・細砂礫	良好	茶褐色	茶褐色	ナデ	ヘラ状施文具による沈線文
30	3 b	石英・長石・細砂礫	良好	黄褐色	黄褐色	ナデ	ヘラ状施文具による沈線文
31	3 b	石英・長石・細砂礫	良好	灰褐色	暗褐色	ナデ	ヘラ状施文具による沈線文
32	4 a	石英・長石・細砂礫	良好	暗褐色	茶褐色	ナデ	ヘラ状施文具による沈線文及び刺突連点文
33	4 a	石英・長石・細砂礫	良好	暗褐色	茶褐色	ナデ	ヘラ状施文具による沈線文及び刺突連点文
34	4 a	石英・長石・細砂礫	良好	暗褐色	黒褐色	ナデ	ヘラ状施文具による沈線文



第25図 13トレンチ土層断面図

13トレンチ

調査区域の南端標高約177m地点に設置したトレンチで主軸はほぼ東西を向く。3b層より上部はすでに削平されている。6層下部まで掘下げたが、遺物は出土しなかった。



第26図 14トレンチ土層断面図

14トレンチ

8トレンチの東方約50m、標高約180m地点に設けたトレンチで主軸はほぼ東西を向く。6層下部まで掘下げたが遺物は出土しなかった。

4. ま と め

牧ノ段遺跡においては3・5・7・8・12トレンチにおいて5層から縄文時代早期、3b層及び4a層から縄文前期の遺物が出土したが3・5・7・8トレンチを囲む範囲に縄文早期の遺物包含層が広がり、7・8・12トレンチを囲む範囲に縄文時代前期の遺物包含層が広がるものとおもわれる。

縄文時代早期の土器として1(3トレンチ)、4~7(4トレンチ)、8(7トレンチ)、10(8トレンチ)などがある。4は斜位の貝殻条痕のうえに貝殻腹縁による縦位の刺突文を重ねて施文したもので前平式土器に比定できる。8は表裏面ともに貝殻条痕がみられるが、円筒形の器形になるものと思われる。

縄文前期の土器として12トレンチにおいて3b層及び4a層より曾畑式土器(20~34)が集積して出土した。内外面にヘラ状施工具による横位、縦位、斜位の平行沈線および刺突連点文を組み合わせたものである。本町における曾畑式土器の出土例は少ないが、志布志町別府石踊遺跡出土のもの(Ⅲ類)に類似している。この遺物包含層は、上部が一部耕作のため削平されているが東側に張りだした台地端まで延びるものと思われる。

4. 香之田遺跡の調査

1. 調査の概要

調査区域は、菱田川の支流松尾川に余って開析された標高約180mのシラス台地上に位置している。全体的に西方向に傾斜している。平成元年5月に分布調査が行われ、遺跡の存在が確認されている。

発掘調査は、牧ノ段遺跡同様に分布調査で確認された部分、立地条件等から遺跡の可能性の高い部分を中心に2m×4mのトレンチを基本として18ヶ所設定して行い、5a・8トレンチを拡張した。その結果、2・5・5a・5b・7・8トレンチにおいて縄文時代早期、前期の土器、石器が出土した。

2. 層位

調査区域内の層序は、基本的に第27図のように区分できる。

1層 : 暗褐色耕作土。色調により2~3層に区分できる。

2層 : 黒色腐植火山灰土層。黒色微粒の植壊土で、やや粘質を帯びる。

3a層 : 褐色腐植火山灰土層。3b層の軽石質火山灰土層に2層の有機質がしみ込んだもので、3b層との境は不安定で漸移している。縄文時代前期の遺物包含層である。

3b層 : 明黄褐色軽石質火山灰土層。直径5mm前後の明黄褐色軽石を含み、サラサラしている。霧島火山御池軽石層に対比できるものと思われる。

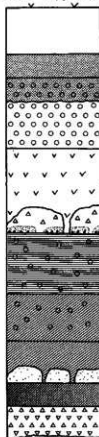
4a層 : 褐色腐植火山灰土層。褐色~黒褐色を呈する硬く締まった層で、直径1cm前後の黄橙色軽石を多く含む。4b層(アカホヤ)層の2次堆積層と思われる。

4b層 : 明褐色火山灰土層。上位のフカフカした新鮮な火山灰層と下位砂粒、火山豆石を含む薄層理層とに区分できる。安定した層をなさず5a層下部にブッコロ状に点在している場所も見られる。

5層 : 灰褐色火山灰土層。直径1cm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含む。縄文時代早期の遺物包含層である。

6a層 : 黒褐色腐植土。割合に硬く締まった層で、5層と同様に直径5mm前後の黄橙色軽石を多く含む。5層との境は不明瞭で漸移している。

6b層 : 黒褐色腐植土。硬く締まった層で、6a層と違い直径5mm前



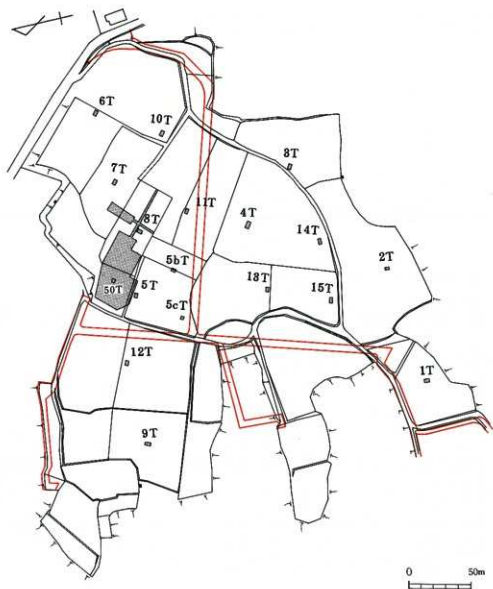
第27図 土層模式柱状図



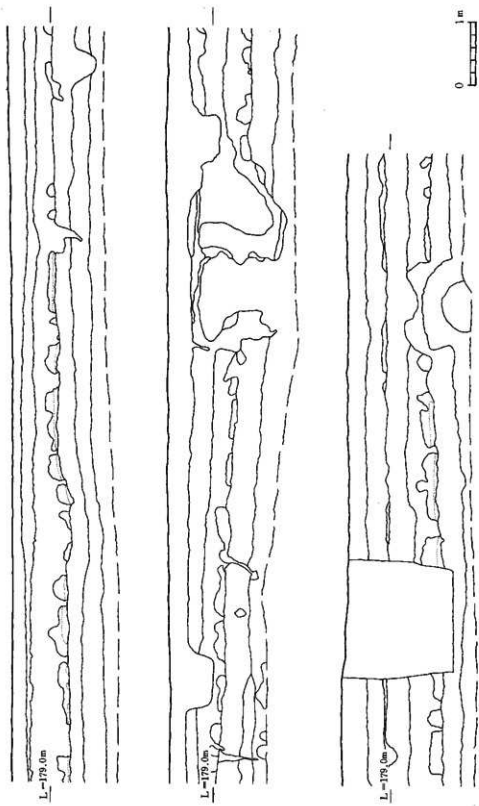
第28図 香之園遺跡周辺地形図

後の黄橙色軽石はほとんど含まない。

- 7層 : 黄橙色火山灰土層。割合に硬く締まった粘土化した火山灰土で、6層下部にブロック状にはいる。板島起源の「薩摩層」に対比できる。
- 8層 : 明茶褐色粘質土層。きわめて細粒の粘質を帯びたフトローム層である。
- 9層 : 淡黄褐色火山灰土層。粘土化した二次シラス層である。

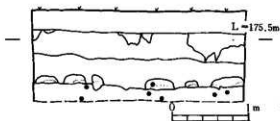


第29図 香之田遺跡トレンチ配置図



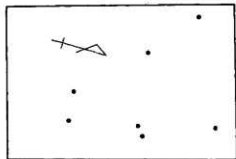
第30図 香之田遺跡土層断面図

3. 各トレンチの調査



1トレンチ

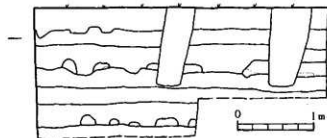
調査区域の南端に位置し、標高170.00mに設定した2m×2mのトレンチである。表土直下が第8層になっており、縄文早期、前期の包含層はすでに削平されている。遺物は出土しなかった。



第31図 2トレンチ平面図

2トレンチ

1トレンチの東側約50mに位置する。標高175.70mに設定した3m×2mのトレンチである。各層ともほぼ水平に堆積しており、第5層より縄文時代早期該当の遺物が検出されたが、小片のため図化できるものは無かった。



第32図 3トレンチ土層断面図

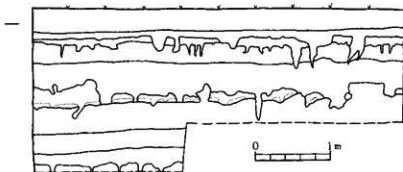
3トレンチ

調査区域の東端に位置する4m×2mのトレンチである。層位は全体的に水平に堆積しているが、表土から幅15cmの深い落ち込みが40~50cm間隔で連続しており、5層まで

達している。遺物は出土していない。

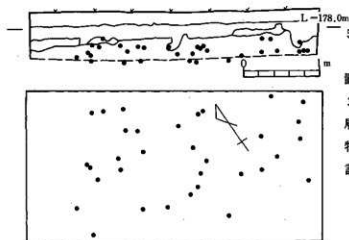
4トレンチ

3トレンチの西側、約50mに位置し、標高、178.00mに設定した



第33図 4トレンチ土層断面図

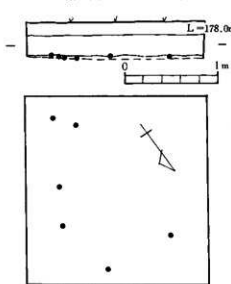
5m×3mのトレンチである。各層ともほぼ水平に堆積するが、遺物は出土していない。



第34図 5トレンチ平・断面図

5トレンチ

4トレンチの北側約100mに位置し、標高、178,00mに設定した3m×2mのトレンチである。4層から上は既に削られている。遺物は5層上面より、縄文時代早期該当の遺物が多数出土している。



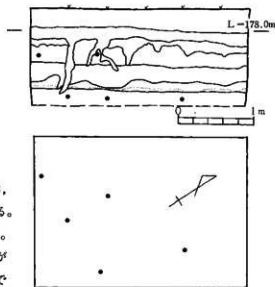
第35図 5 aトレンチ平・断面図

5 aトレンチ

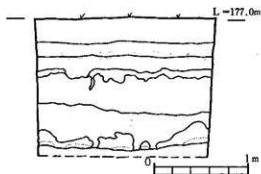
5トレンチから、北東に約20m、調査区域の北端に位置し標高、178,00mに設定した2m×2mのトレンチである。層位はやや北西方向に傾斜しており、5層より上はすでに削平されている。遺物は5層より6点出土しているが、すべて小片のため、図化することはできなかった。

5 bトレンチ

調査区域のほぼ中央部に位置し、標高178,00mに設定した2m×3mのトレンチである。層位は全体的に若干南西方向に傾斜している。3 a層より内面に波状の突帯を持つ縁部が出土している(84)。小片のため品種は断定できない。5層においても土器が数点検出された。



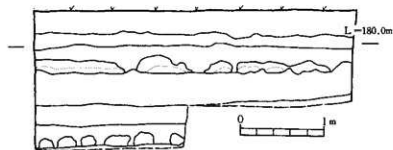
第36図 5 bトレンチ平・断面図



第37図 5Cトレンチ土層断面図

5c トレンチ

5 トレンチの南西約40mに位置し、標高17,00mに設定した2m×2mのトレンチである。層位はほぼ水平に堆積するが遺物は出土していない。

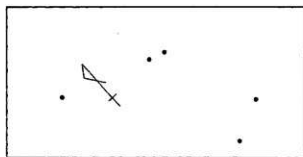
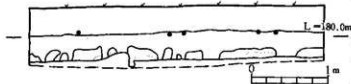


第38図 6トレンチ土層断面図

6 トレンチ

調査区域の東端に位置し、標高180,00mに設定した4m×2mのトレンチである。各層ともほぼ水平に堆積するが3層から上は既に造成工事によって削平され

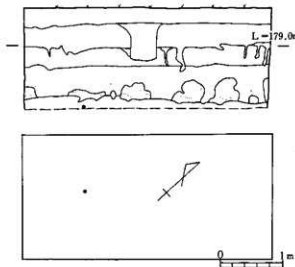
ている。遺物は出土しておらず、遺構らしきものもなかった。



第39図 7トレンチ平・断面図

7 トレンチ

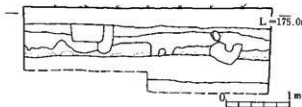
6 トレンチから西側約50mに位置し、標高181,00mの調査区域の一番高い地点に設定した4m×2mのトレンチである。層位は全体的に若干北側に傾斜しており、4 a層から上は既に削平されていた。遺物は4 a層より少量出土しており、極めて小片のため図化できなかった。



第40図 8トレンチ平・断面図

8トレンチ

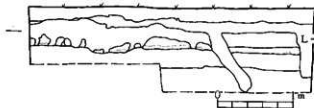
7トレンチから西側約40mに位置し、標高179,00mに設定した4m×2mのトレンチである。各層ともほぼ水平に堆積している。2層から3層まで達する落ち込みが検出されたが、断面の形状からイモ穴と思われる。5層より縄文早期該当の遺物が出土したが、小片のため図化できなかった。



第41図 9トレンチ断面図

9トレンチ

調査区域の北西端の舌状に張り出した地点に位置する標高175,00mに設定した4m×2mのトレンチである。層位はほぼ水平に堆積する。遺物は出土していない。

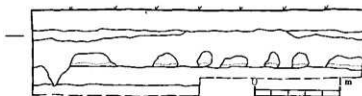


第42図 10トレンチ断面図

10トレンチ

7トレンチの西側約60mに位置し、標高179,00mに設定した4m×2mのトレンチである。各層ともほぼ水平に堆積するが、4a層から6層までを掘り込んだ土壌が検出された。土壌内より遺物は出土しなかった。

7トレンチの西側約60mに位置し、標高179,00mに設定した4m×2mのトレンチである。各層ともほぼ水平に堆積するが、4a層から6層までを掘り込んだ土壌が検出された。土壌内より遺物は出土しなかった。

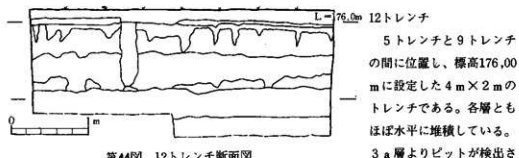


第43図 11トレンチ断面図

11トレンチ

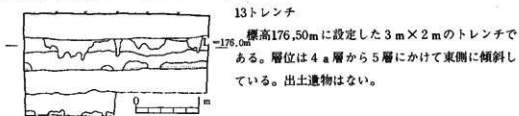
調査区域のほぼ中央部に位置し、標高178,50mに設定した4m×2mのトレンチである。各層ともほぼ水平に堆積している。遺物は出土していない。

調査区域のほぼ中央部に位置し、標高178,50mに設定した4m×2mのトレンチである。各層ともほぼ水平に堆積している。遺物は出土していない。

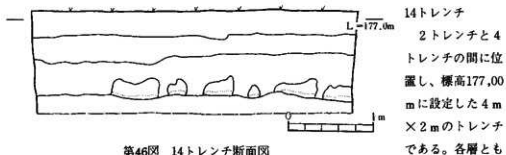


第44図 12トレンチ断面図

れたが、その性格については不明である。遺物は出土していない。



第45図 13トレンチ断面図



第46図 14トレンチ断面図

ほぼ水平に堆積している。遺物は出土していない。



第47図 15トレンチ断面図

遺物はない。

5 a トレンチ・8 トレンチ拡張区 (第48図参照)

5 a トレンチをほぼ中心に、南北に90m、東西に50mの区域を調査した。なお8 トレンチ付近は出土遺物が極めて少なかったため、溝状に拡張し遺物が確認された地点を中心に面状に拡張し調査を行った。

出土土器 (第49図～第59図参照)

出土遺物は5 a トレンチを中心に出土したが、8 トレンチ付近においても確認された。

1～3はほぼ直行する器形の同部である。外面に貝殻による彩形状の施文を施す。

6～8は口縁部先端がやや外反する器形である。外面に貝殻による斜位の刺突を連続して施し、一部は内面にも及ぶ。7, 8は口唇部に面を持ち、刺突を施す。

9は頸部から口縁部へと外反し、肥厚する器形である。肥厚した部分にヘラ状の施文具による羽状の凹線文を施す。頸部には刻目突帯をめぐらし、口唇部にも刻み目を持つ。10も同様に頸部から口縁部へと外反するが内面に明瞭な屈曲を持つ波状の口縁部である。外面に口縁部先端まで及ぶ燃糸文を施し、その上から頸部から口縁部にかけて数条の凹線を施す。

11は小片のため、傾きに若干疑問が残る。外面にヘラ状の施文具による凹線を施す。12は口縁部片である。羽状の凹線を口縁部に、刻目突帯を頸部に施文するなど9と同じタイプと考えられるが、口縁部先端が肥厚しない点は注意しなければならない。13は頸部に屈曲部を持ち、そこからやや外反ぎみに立ち上がる器形である。外面に数状の凹線を施し、口唇部にも刻目を施す。14, 19～20も同タイプと思われる。15は波状口縁の頂部である。外面に凹線を数状施し、口唇部にも沈線を施す。17, 18も同様である。25は頸部から口縁部に向けて外反する器形で、頸部に刻目突帯を付す。波状口縁である。26は外側に屈曲する頸部である。直接器面に刺突を施す。

31～33は胴部から頸部にかけて外反し、頸部から立ち上がる器形である。屈曲部に刻み目を施し、外面に幾何学凹線文を施す。波状口縁である。34は頸部に鈍い稜線を持つ波状口縁である。外面に凹線文を施し、凹線の間に刺突を、口唇部に刻み目を施す。

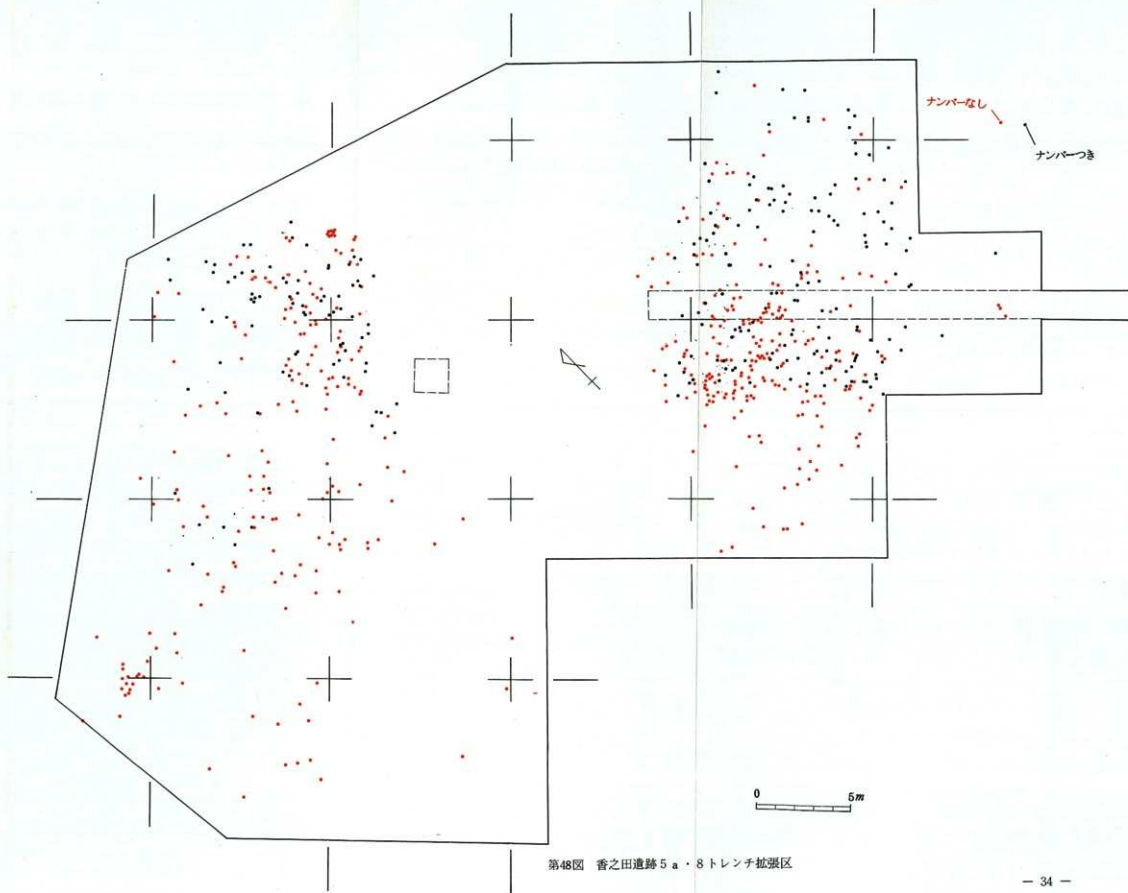
35, 38は頸部付近に刻目突帯を付す。やや外側にふくらむ器形である。深鉢でない可能性も考えられる。

37は頸部から口縁部にかけて外反する器形である。内面に明瞭な稜線を持つ。頸部外面に浅い凹線を数条施し、口唇部に刻みを施す。39, 40も同タイプと思われる。

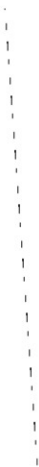
42は頸部に屈曲し、内面に明瞭な稜線を持ち口縁部先端が外反する器形である。頸部に数条の凹線を配し、口縁部外面に波状凹線文を施文する。口唇部にも刺突を施す。

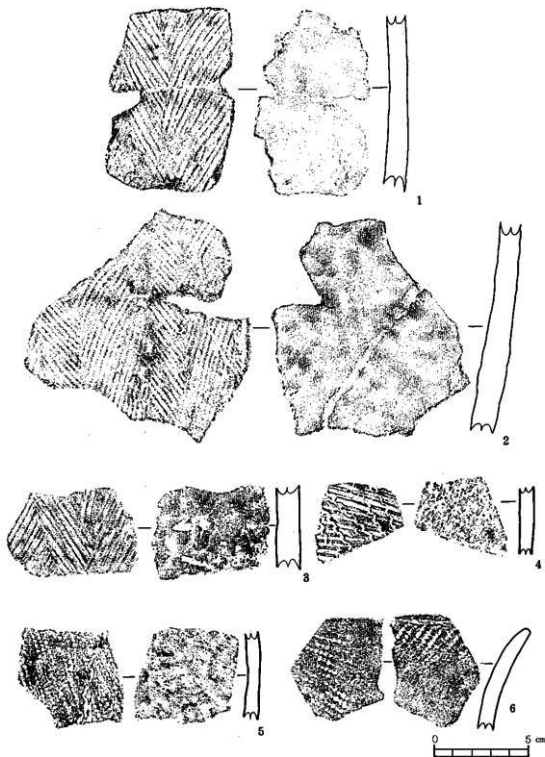
43～49は頸部から口縁部にへ外反し、内面に明瞭な稜線を持つ器形である。頸部から口縁部にかけて数条の凹線文を配し、口唇部に刻み目を施す。47は燃糸文が頸部にまで及ぶ。

51～74はほぼ直行する胴部で43～49と同タイプと考えられる。51は凹線の間に刻目突帯を施す。各土器とも器壁は薄く、焼成は良好である。

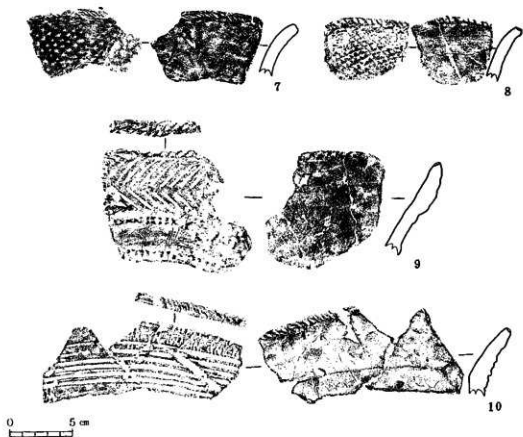


第48図 香之田遺跡 5 a・8 トレンチ拡張区





第49图 香之田遺跡出土遺物実測図(1)

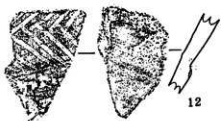


第50図 香之田遺跡出土遺物実測図(2)

77はほぼ直行する口縁部で、外面に沈線を施し、口縁部先端に刺突を横位に連続して施文している。

79～81は胴部、82は底部である。外面に貝殻条痕文を施す。器壁はやや厚く、硬い。82の底部は調整が荒く、不定形である。79～82とも同一個体と思われる。

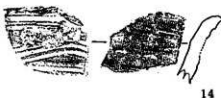
83は無文の頸部である。84、86～90は底部である。84、86、88～90は平底で、88、90は外面に摺糸文を施す。87は上げ底で、若干外側に張り出しながら立ち上がる器形である。89は外面に刻目文を施す。器壁はやや厚い。



12



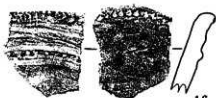
11



14



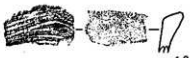
18



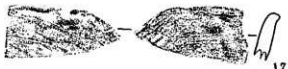
16



15



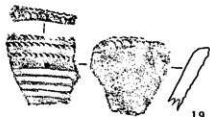
18



17



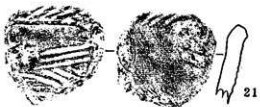
20



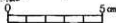
19



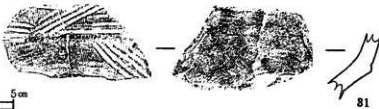
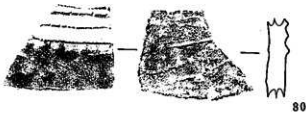
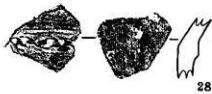
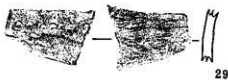
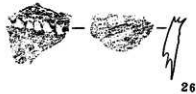
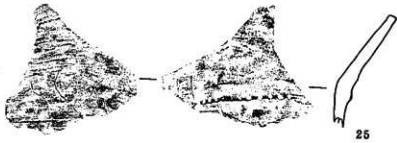
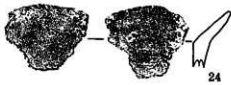
22



21



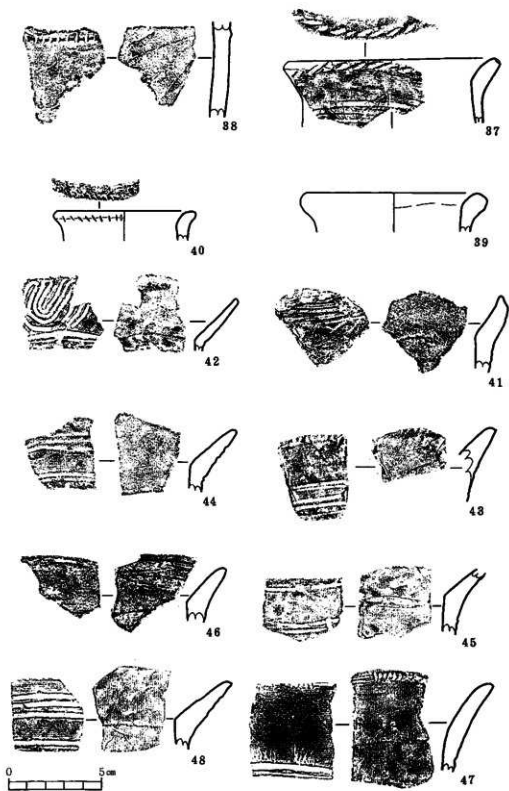
第51図 香之田遺跡出土置物実測図(3)



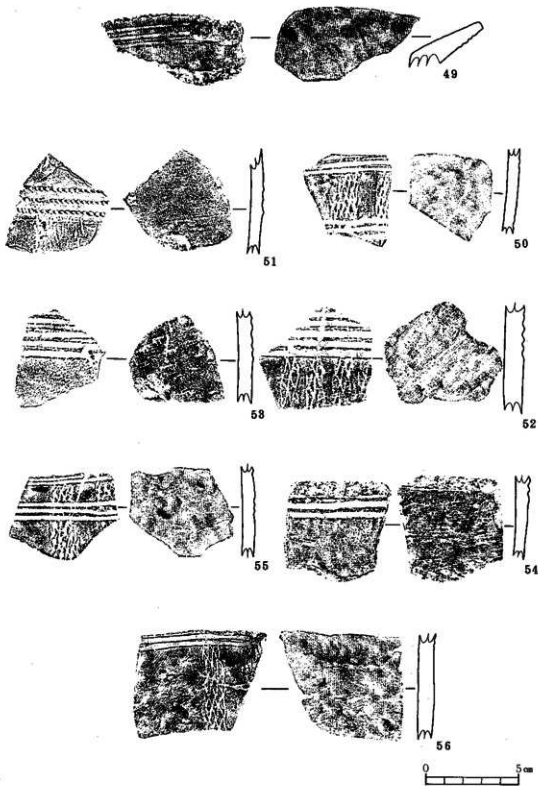
第52図 香之田遺跡出土置物実測図(4)



第53図 香之田遺跡出土遺物実測図(5)



第54図 香之田遺跡出土遺物実測図(6)

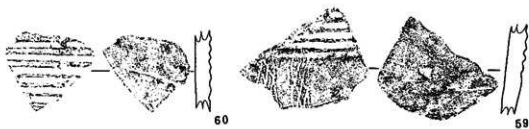


第55図 香之田遺跡出土遺物実測図(7)



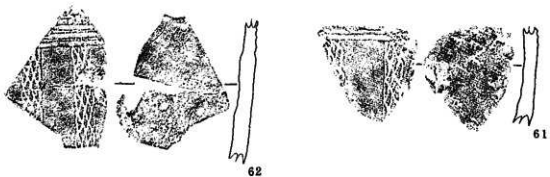
57

58



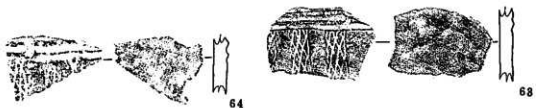
59

60



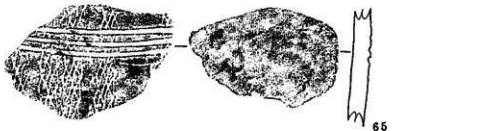
61

62



63

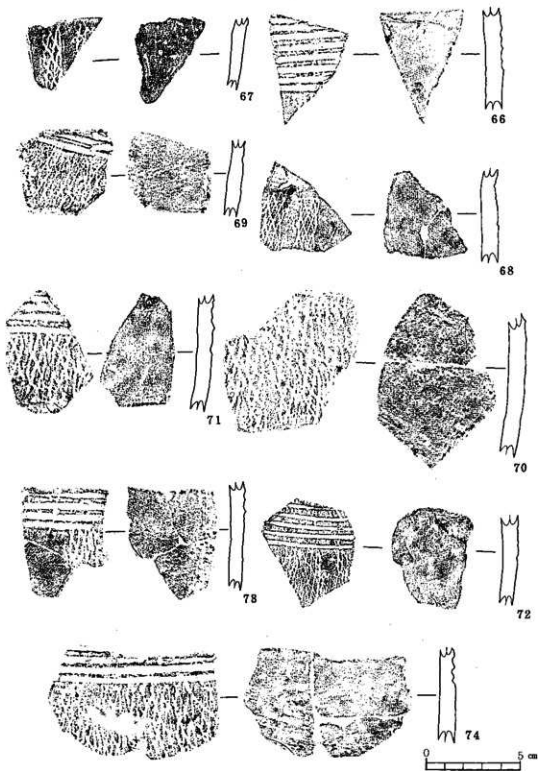
64



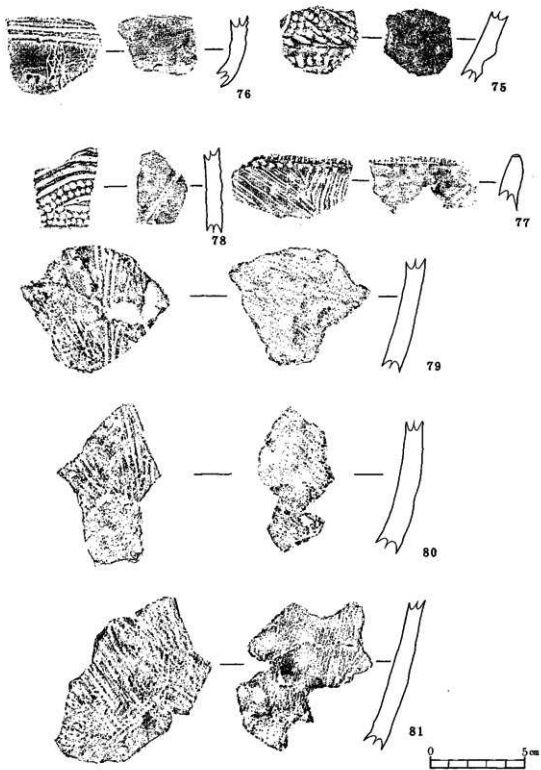
65



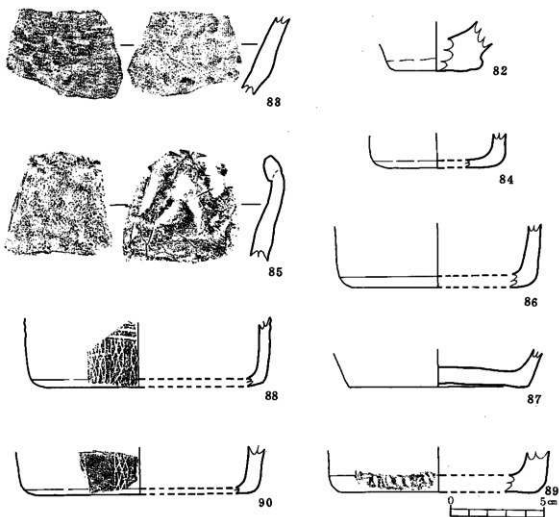
第56图 香之田遺物出土遺物実測图(8)



第57図 香之田遺物出土遺物実測図(9)



第58图 香之田遺跡出土土器実測図(10)



第59図 香之田遺跡出土土器実測図(1)

遺物 番号	層	胎 土	焼成	色 調		内面 調整	文 様 そ の 他
				外面	内面		
1	5	石英・意石	良好	茶褐色	暗褐色	ナデ	斜位の貝殻条痕
2	5	石英・長石・細砂粒	良好	茶褐色	褐色	ナデ	斜位の貝殻条痕
3	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	茶褐色	ナデ	斜位の貝殻条痕
4	5	石英・長石・雲母	良好	暗褐色	茶褐色	ナデ	斜位の貝殻条痕の後貝殻刺突を施す
5	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	茶褐色	ナデ	貝殻刺突
6	5	長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	貝殻刺突 (一部内面にも及ぶ)

第4表 香之田遺跡出土土器観察表(1)

遺物 番号	層	胎 土	焼成	色 調		内面 調整	文 様 そ の 他
				外 面	内 面		
7	5	石英・長石・細砂粒	良好	茶褐色	褐色	ナデ	斜位の貝殻刺突
8	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	斜位の貝殻刺突
9	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	茶褐色	ナデ	ヘラ状工具による斜位の凹線
10	5	石英・長石・細砂粒	良好	茶褐色	暗褐色	ナデ	燃糸文施文の後凹線を施す
11	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による斜位の凹線
12	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	ヘラ状工具による斜位の凹線
13	5	石英・長石・細砂粒	良好	茶褐色	暗褐色	ナデ	ヘラ状工具による斜位の凹線
14	5	石英・細砂粒	良好	茶褐色	暗褐色	ナデ	ヘラ状工具による凹線
15	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による斜位の沈線
16	5	石英・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線
17	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	
18	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線
19	5	石英・長石・雲母	良好	暗褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による凹線
20	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線
21	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線
22	5	石英・長石・細砂粒	良好	赤褐色	赤褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線
23	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	
24	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	
25	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	
26	5	石英・長石・雲母	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	
27	5	石英・長石・細砂粒	良好	赤褐色	赤褐色	ナデ	
28	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	
29	5	石英・長石・細砂粒	良好	黒褐色	赤褐色	ナデ	
30	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	
31	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による幾何学沈線文
32	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線文
33	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線文
34	5	長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による幾何学沈線文
35	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	

第4表 香之田遺跡出土土器観察表(2)

遺物 番号	層	胎 土	焼 成	色 調		内面 調査	文 様 そ の 他
				外 面	内 面		
36	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	
37	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線文
38	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	
39	5	石英・長石・細砂粒	良好	赤褐色	赤褐色	ナデ	
40	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	
41	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	
42	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	暗褐色	ナデ	ヘラ状工具による波状沈線文
43	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線文
44	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線文
45	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線文
46	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	
47	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	撫糸施文の後ヘラ状工具による沈線文
48	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線文
49	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線文
50	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	撫糸施文の後ヘラ状工具による沈線文
51	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	暗褐色	ナデ	撫糸文
52	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	撫糸施文の後ヘラ状工具による沈線文
53	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線文
54	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線文
55	5	石英・長石・細砂粒	良好	黒褐色	黒褐色	ナデ	撫糸施文の後ヘラ状工具による沈線文
56	5	石英・長石・細砂粒	良好	黒褐色	褐色	ナデ	撫糸施文の後ヘラ状工具による沈線文
57	5	石英・長石・細砂粒	良好	黒褐色	暗褐色	ナデ	撫糸施文の後ヘラ状工具による沈線文
58	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	撫糸施文の後ヘラ状工具による沈線文
59	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	ヘラ状工具による沈線文施文の後撫糸文
60	5	石英・長石・細砂粒	良好	茶褐色	茶褐色	ナデ	ヘラ状工具による凹線文
61	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	撫糸施文の後ヘラ状工具による沈線文
62	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	撫糸施文の後ヘラ状工具による沈線文
63	5	石英・長石・細破粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	撫糸施文の後ヘラ状工具による沈線文
64	5	石英・長石・細砂粒	良好	茶褐色	褐色	ナデ	撫糸施文の後ヘラ状工具による沈線文

第4表 香之田遺跡出土土器観察表(3)

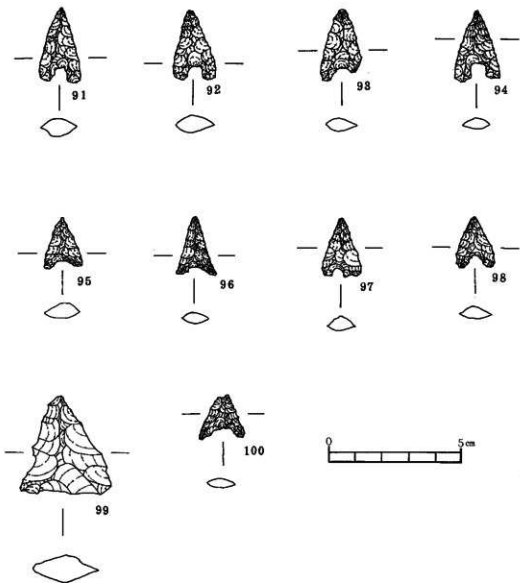
遺物 番号	層	胎 土	焼成	色 調		内面 調整	文 様 そ の 他
				外 面	内 面		
65	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗茶褐色	ナデ	燃糸文施文の後ヘラ状工具による沈線文
66	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	燃糸文
67	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	燃糸文施文の後ヘラ状工具による凹線文
68	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	燃糸文
69	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	茶褐色	ナデ	燃糸文施文の後ヘラ状工具による沈線文
70	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	燃糸文
71	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	燃糸文施文の後ヘラ状工具による凹線文
72	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗茶褐色	ナデ	燃糸文施文の後ヘラ状工具による沈線文
73	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	燃糸文施文の後ヘラ状工具による凹線文
74	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	燃糸文施文の後ヘラ状工具による凹線文
75	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	凹線文・刺突
76	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	燃糸文施文の後ヘラ状工具による沈線文
77	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	斜位の沈線文
78	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	沈線文・刺突
79	5	石英・長石	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	斜位の貝殻条痕
80	5	石英・長石	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	斜位の貝殻条痕
81	5	石英・長石	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	斜位の貝殻条痕
82	5	石英・長石	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	
83	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	
84	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	
85	3	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	波状突帯をもつ
86	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	暗褐色	ナデ	
87	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	暗褐色	ナデ	
88	5	石英・長石・細砂粒	良好	暗褐色	褐色	ナデ	燃糸文施文の後ヘラ状工具による沈線文
89	5	石英・長石・細砂粒	良好	赤褐色	褐色	ナデ	
90	5	石英・長石・細砂粒	良好	褐色	褐色	ナデ	燃糸文

第4表 香之田遺跡出土土器観察表(4)

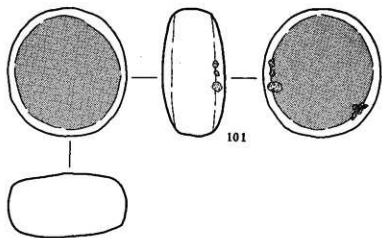
出土石器

石鏃 (91~100 第60図)

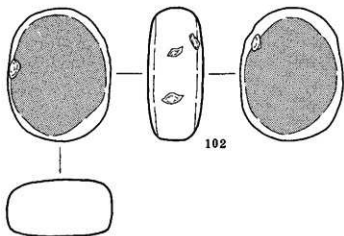
本遺跡で出土した石器はほとんどが石鏃である。全体的に縦長のものが多い。91, 93基部が一部欠損している。100は先端が欠損している。99は全体の成形、調整は荒いため製作途中と推定される。石質はホルンフェルス化した砂石、黒曜石などであった。



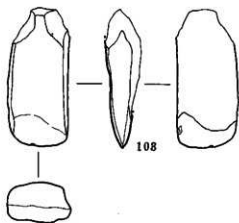
第60図 香之田遺跡出土遺物実測図(12)



101



102



108



第61图 香之田遺跡出土遺物実測图13

磨石 (101, 102 第61図)

本遺跡出土の磨石は2点だけである。いずれも形状は楕円形をなす。101, 102とも両面が磨ってある。石質は101が砂石、102花崗岩である。

磨製石斧 (103 第61図)

103は基部欠損した状態である。全体的に丁寧な研磨が施されている。刃部はするどく鋭利である。石質は砂石である。

第4筋 まとめ

香之田遺跡においては2・5・5a・5b・7・8トレンチにおいて5層から縄文時代早期及び、5b層から縄文時代前期以降の遺物が出土したが、2トレンチを中心にした範囲と、5・5a・5b・7・8トレンチを囲む範囲に縄文時代早期の遺物包含層が広がり、5bトレンチ付近に縄文時代前期以降の遺物包含層が広がるものと思われる。

また5a・8トレンチを拡張した結果、縄文時代早期に該当する遺物が多く出土した。その中でも平格式土器と塞ノ神式土器に比定できる遺物が中心に出土したが、得意なタイプの出土例も多かった。81～83は頸部にくの字形の屈曲部を持つものであるが、加世田市の村原(榕ノ原)遺跡に出土したものと同タイプのものと思われる。

香之田遺跡において、縄文時代早期の包含層は5aトレンチを中心に北西側にも広がっていたと思われる。しかし北西側は既に造成工事によって削平をうけているため、詳細はわからない。また2トレンチを中心にした範囲は、設計変更などにより保存対策をとった。

参考文献

河口貞徳	「塞ノ神式土器」	鹿児島考古第6号	鹿児島県考古学会	1972
石峰遺跡		鹿児島県埋蔵文化財調査報告書12		1980
村原(榕ノ原)遺跡			加世田市教育委員会	1977
飛渡遺跡・島廻遺跡・白木原遺跡			志布志町教育委員会	1988



牧ノ段遺跡発掘作業風景



1 トレンチ局部断層



3 トレンチ遺物出土状況



5 トレンチ遺物出土状況



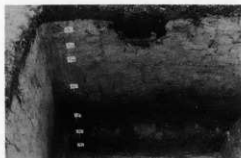
牧ノ段遺跡 12 トレンチ遺物出土状況



発掘作業風景



2トレンチ



4トレンチ



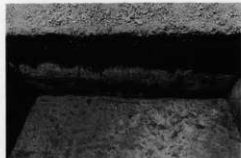
6トレンチ



9トレンチ



10トレンチ



11トレンチ



13トレンチ



14トレンチ



香之田遺跡遠景



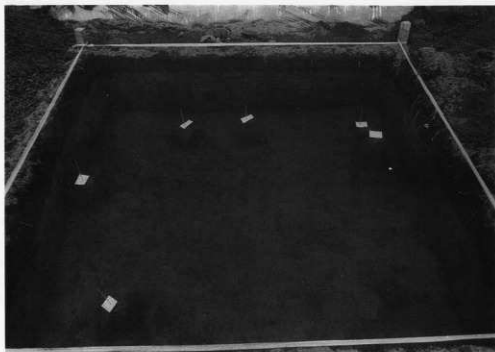
香之田遺跡発掘作業風景



香ノ田遺跡 2 トレンチ遺物出土状況



香ノ田遺跡 5 トレンチ遺物出土状況



5 a トレンチ遺物出土状況



5 b トレンチ出土状況



7 トレンチ遺物出土状況



8 トレンチ遺物出土状況



香ノ田遺跡 3 トレンチ



香ノ田遺跡 4 トレンチ



香ノ田遺跡 5 トレンチ



香ノ田遺跡 9 トレンチ



香ノ田遺跡 10 トレンチ



香ノ田遺跡 11 トレンチ



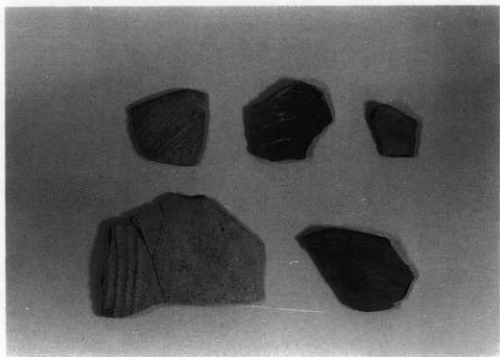
香ノ田遺跡 12 トレンチ



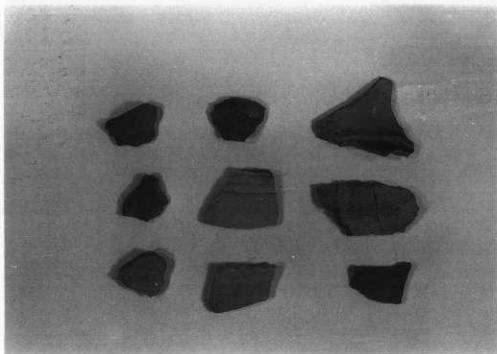
香ノ田遺跡 13 トレンチ



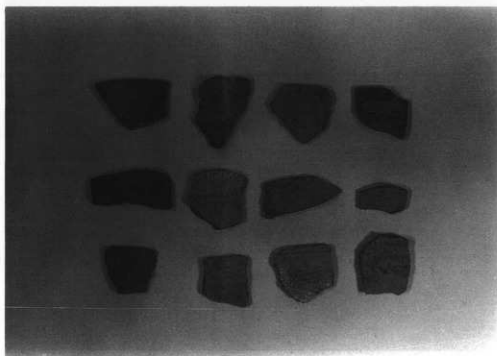
香ノ田遺跡 5 a・8 トレンチ拡張区出土遺物



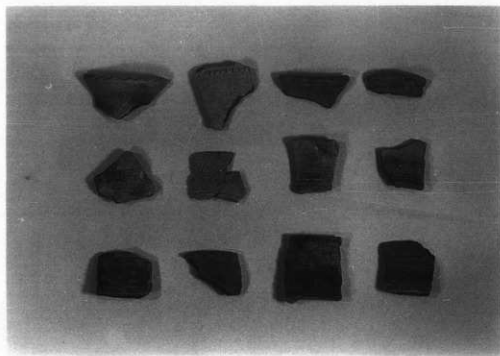
香ノ田遺跡 5 a・8 トレンチ拡張区出土遺物



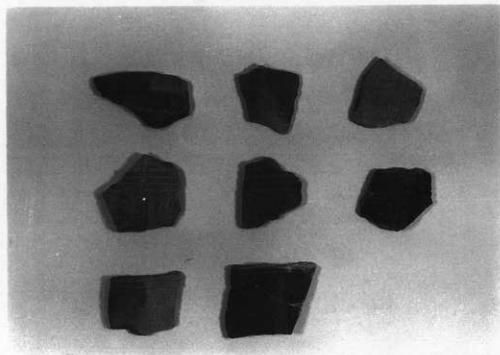
5 a・8 トレンチ拡張区出土遺物



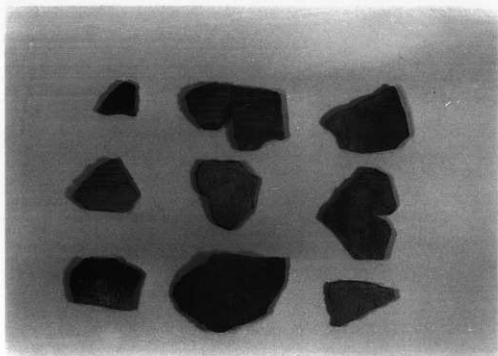
5 a・8 トレンチ拡張区出土遺物



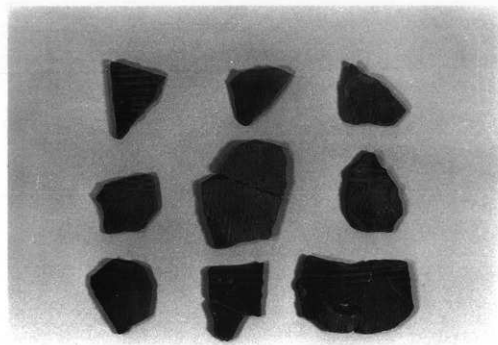
5 a・8トレンチ拡張区出土遺物



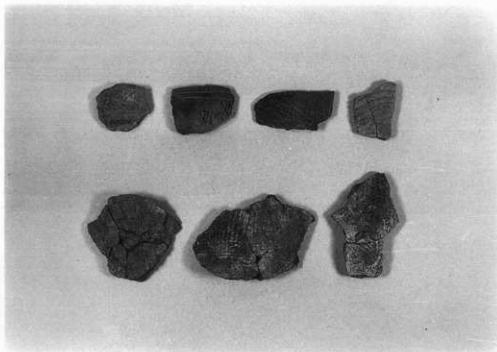
5 a・8トレンチ拡張区出土遺物



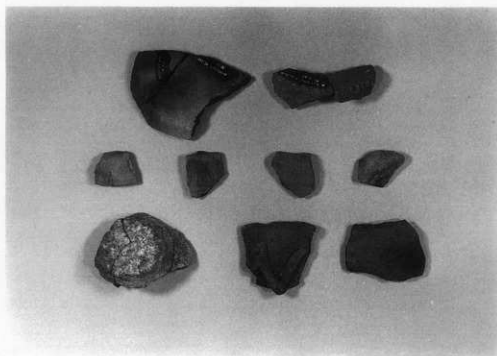
5 a・8 トレンチ拡張区出土遺物



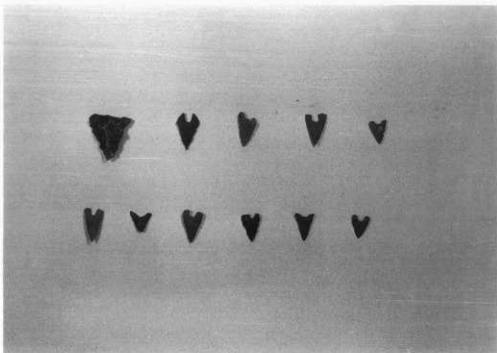
5 a・8 トレンチ拡張区出土遺物



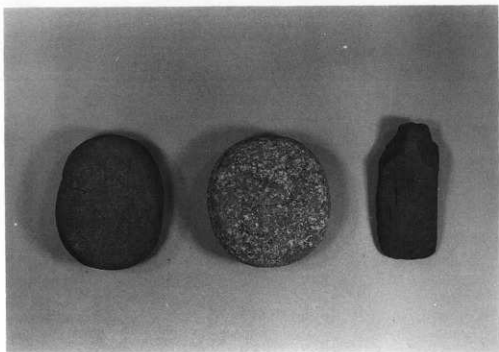
5 a・8 トレンチ拡張区出土遺物



5 a・8 トレンチ拡張区出土遺物



5 a・8 トレンチ拡張区出土遺物



5 a・8 トレンチ拡張区出土遺物



青井面遺跡・彩集遺物

発掘作業員

上ノ園克昭	日高 国夫	井手 武文	井手 和子	坂本 優子
脇田真砂代	安田美奈子	安楽百合子	安楽 ナミ	阿多 久子
西留 節子	吉元 継子	加世田悦子	小名川ツギ	徳増ハツエ
徳留 ツル	福水 フミ	東 イサ	森 春子	中山イチ子
山口キミノ	富吉カオル	若松 京子	水田 チミ	水田 ハル
重永 ヒデ	釘田ヒサエ	上ノ園芳子	丸山ツルカ	高吉 トミ
加世田エイ子	池ノ原ノリ子	松崎よしの		

整理作業員

相良 政子 下島 節子 坂本 優子 東 イサ 脇田真砂代

松山町埋蔵文化財調査報告書(5)

畑地帯総合整備土地改良事業曾於東部三期地区(河床工区),
曾於東部地区(狩川工区)に伴う埋蔵文化財調査報告書

牧ノ段遺跡
香之田遺跡

発行日 平成2年3月
発行 松山町教育委員会
鹿兒島県曾於郡松山町新橋268番地
印刷 平成印刷
宮崎県都城市神之山町2035番地